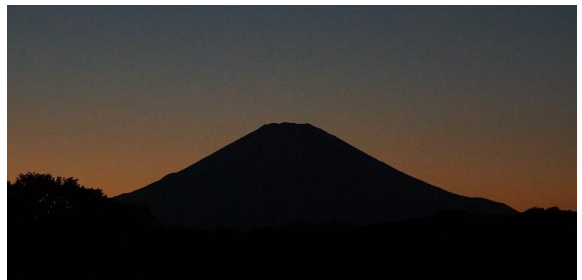
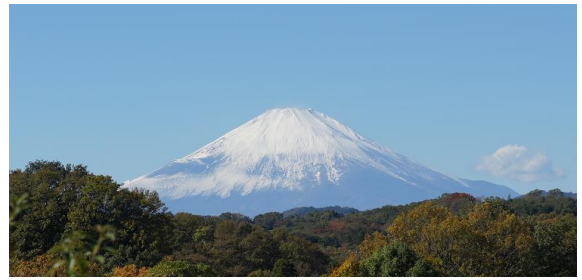


＜晴天の富岳三景＞このところ空気の澄んだ晴天に恵まれ朝夕の気温もぐんと下がってってきました。富士山の雪化粧は裾野までには至らず、写真手前のビオトープ周辺の林も紅葉が始まったところです。キャンパスからの富士がとりわけ美しく見える時期ですね。写真は上から順に昼前、夕 4 時半頃、そして 5 時過ぎに撮ったものです。“富岳三景神奈川之学舎”とでも？ただただ写真をご覧ください。



＜冬の入り口＞一方、近くに目をやると植物たちのしっかりとした営みがあります。まず、ソーセージのようだったガマの穂が割れてあちこちで



綿毛をまき散らしている姿が見られます。ニシキギは若葉と花の頃とは打って変わって“錦”の

＜綿毛を飛ばすガマの穂＞ 名に相応しい色鮮

やかな実を沢山つけています。葉も色付いてきていますが実の方が先に黒くなってしまい、葉と実の“錦のそろい踏み”とはいかなさそうです。

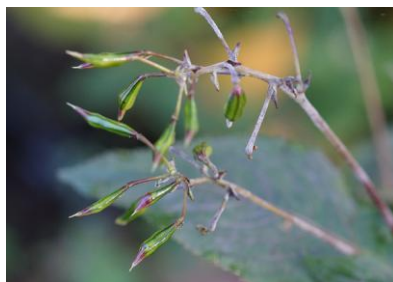
＜不思議＞池を隔ててニシキギとは反対側の斜面にはホトトギスが一行に立った実を枝に幾つも付けています。花は随分早くに終わったギボウシもまだ緑の実を付けていますがこの2つは葉のあるなしを別にしてこの実の付き方が似ています。ホトトギスと同じく“造化の妙” (No.20) と紹介したツリフネソウも枝先に緑の細い果実を付けています。どれもさほど目を惹くものではありません。花が凝った色かたちをしたものは果実が平凡(?)、果実が凝った色かたちをしたものは花が目立たない。



＜ニシキギの果実＞



＜ホトトギスの果実＞



＜ツリフネソウの果実＞

したものは花が目立たない。実に不思議です。植物にとっては全て意味のあることなのでしょうが、花も実も“造化の妙”と感嘆するものはありやなしや。私の勝手な思いであります。(文と写真：松本正勝)